

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果では、国語、算数のどちらの教科においても設問ごとには全国の平均正答率を上回るものがあったが、達しない項目もあった。特に算数の「変化と関係」、国語「読むこと」にかかわる設問については正答率が低く、特に記述問題など書くことに課題がある。

○意欲的に学習に取り組む児童もいるが、問題解決に向けて論理的に考えたり、自分の意見や考えを友達に伝えたりする活動について自信がもてない児童が多い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○児童が主体的に学習に取り組む時間が十分に確保できていない。

○児童一人ひとりの考えを友達同士で交流する場面で対話を通して互いを高め合い、深い学びにつなげる指導を工夫する必要がある。

○本時のめあてが達成できたかを児童自身が振り返る時間が取れていない。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○児童が知識・技能を習得し、習得した知識を活用して考える力、表現し伝える力を育むために、児童の主体的な学びを引き出す問題解決学習や協働学習・探究的な学習の充実を図り、自立した学習者を育てよう授業革新を図る。

○家庭と協力して一人一台端末が活用できる環境を整え学習の個別最適化を図るとともに、図書館を活用した探究活動及び読書活動を推進し、学力の定着と向上を図る。

○協働的な学びを通して学んだことを発信し、実践する行動力を身に付けさせる。

■確かな学力の育成に向けての具体的な方策

視点1

板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組

○各教科等の授業において、「学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」等の学習の流れを定着させる。

○授業において、児童が自分で選択・決定できる場面を設定する。

視点2

ICT環境の適切な維持と活用
個別最適な学び・協働的な学びの実現

○積極的にICT機器を活用して課題を追求したり、表現したりする学習活動の充実を図る。

○一人一台端末を活用し、自分の課題に合った個別最適化した学びにつなげたり、自分の考えを表現するなど協働的な学習につなげたりする。

視点3

総合的な学習の時間との連携

○探究的な学習の中心となる総合的な学習のカリキュラムとの接続を図り、確かな学力と各教科との横断的な学習の力を定着させる。

○教科学習の中で生まれた児童の興味関心に沿った課題を取り入れるよう工夫する。

■MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035- -アクションプラン2028-の実現に向けた具体的な取組

保幼小接続・小中一貫教育の推進

○「環境教育」の実践の中で、動植物の保護や飼育、栽培を通して、地域で生活していく自分たちの生活環境に興味関心をもたせ、SDGsやESDを意識した探究をすすんで実践できる児童の育成をめざす。

○地域との連携を深めつつ、学校と地域が協力して郷土を愛する心情と日本の伝統文化（昔遊び、落語、和太鼓、お囃子、狂言など）に触れる体験を通して日本の良さに気付き、伝統・文化を大切にすることの心情を育てる。

豊かな心と健やかな体の育成

○主体的な社会形成への参画に向けて、他者の主体性を尊重し、自ら判断・行動し、積極的に実践していくことのできる自己指導能力を育成する生活指導の充実に努める。

○「板橋区いじめ防止対策基本方針」を基に、学校いじめ防止対策基本方針を作成し、それを保護者・地域に周知し、基本方針に則った未然防止・早期発見・早期対応に努める。

多様な教育的ニーズへの対応

○特別な配慮を要する児童への指導の工夫、臨床心理士・特別支援アドバイザー・SC・学校生活支援員を活用しながら、個々の児童の障がいの状態等に応じた指導内容・支援方法の工夫を組織的かつ計画的に行う。

○月2回の特別支援校内委員会を行い、児童の特性や変容、指導・支援の内容を共有する。在籍学級の担任、特別支援教室巡回指導教員や巡回心理士、特別支援教室専門員、関係諸機関との連携を図る。障がいについての理解を進め、合理的配慮の得られる環境づくりに生かす。

○不登校児童・不登校傾向の児童・学級適応支援を要する児童への対応について、SCやSSWも参加する校内委員会を月1回実施する。保護者や関係機関との連携も行う。